

## 美濃加茂市太田町西町採集の「美濃国」刻印須恵器

長屋 幸二

Sueki stamped "Minokoku" found in Oota-machi, Nishi-machi,  
Minokamo-city, Gifu

Koji NAGAYA

## 1. はじめに

1点の「美濃国」刻印須恵器が当館人文展示室1において常設展示中であるが、未報告であったため資料集成などの研究活動に資することができなかつた。この場を借りて資料紹介する。

## 2. 出土地

資料カードには、昭和56年(1981)11月6日、当時の当館考古分野担当者により、美濃加茂市太田町西町において採集されたとある。この時、ホルンフェルスの石製土掘具や下呂石円礫を素材とした石核・剥片など縄文・弥生時代の石器類、縄文土器片、弥生土器片、土師器片、若干の山茶碗片などさまざまな時代の資料が奈良時代の須恵器片とともに採集され、45リットルコンテナ一杯分ほどの量が収蔵されている。

採集者への聞き取りにより「関市から国道248号線を美濃加茂市方面に向かい、美濃太田の市街地に入る直前の段丘崖直下、国道の西側で採集した。その当時、一帯で圃場整備が行われており、水路を掘削した排土より採集した。他にも多量の弥生土器や土師器、須恵器などが出土していた。」との教示を得た。岐阜県遺跡地図には登録されていない地点である。(東経137度0分12秒、北緯35度26分36秒:世界測地系)(図1)

太田町西町では、この以前から須恵器片が採集されており、採集地を見下ろす段丘上面のトドメキ古墳付近では「美濃」の刻印が頸部に押された大型平瓶も見つかっている(吉田1980)。また、その西南には雲埋廃寺(坂祝町酒倉北野)があり、丁寧な作りの複弁面違二重鋸齒文縁軒丸瓦や単弁八葉文軒丸瓦などが見つかっている(平岡2005)。他にも、太田町周辺では太田元薬師廃寺など奈良時代の瓦が採集される地点が7箇所ほど知られ、関市大杉や富加町羽生など加茂野台地から坂祝町酒倉一帯に広がる古代遺跡群の中では、中央や国衙とのつながりがうかがわれる政治的な色合いが強い地域であ

る。雲埋廃寺では、川原寺式軒丸瓦だけでなく、それに先行する単弁八葉文軒丸瓦も見つかっていることから、壬申の乱における論功行賞以前から寺院の造営がなされていたようである。東山道との関わりも想定されよう。

## 3. 資料

須恵器無台坯身の底部片である。底部内面の隅に「美濃国」の刻印が押されている。(図2)

底面径75mm。底部内面径67mm。体部は斜め上方に開き気味に立ち上がるようであるが、7-8単位で折損し、底部のみが残存している。刻印が押されていない側には内面から外面に向けて打ち欠いた痕跡が3箇所以上認められることから、意図的に整形されたものと考えられる。底面は中央部にヘラ切り痕と粘土の小隆起、数条の筋状圧痕が残り、周縁は回転ナデにより平滑に仕上げられている。

刻印は「美濃国」の縦書き陰刻である。右上方に印の縁があたった痕跡が見えるが、「美」三画目の横棒から6mmほど離れている。「濃」は三水撥ねず、傍の「曲」右下は潰れている。「国」は左半の陰刻が浅く、国構えの右上、左上、左下が切れる。「濃」の字は「美」の字より若干左にずれ、「国」の字は「濃」より更に左にずれる。この印型は『老洞古窯跡群発掘調査報告書』における「A-II-1」類に含まれる。この類は、老洞古窯において類例の比較的多いタイプである(高木1981)。

## 参考文献

- 平岡一男 2005."第2章 古代",『坂祝町史』通史編, 坂祝町  
高木 洋 1981."4 美濃国刻印須恵器", 老洞古窯跡群発掘  
調査報告書, 岐阜市教育委員会  
吉田英敏 1980."第5章 古代寺院跡", 美濃加茂市史 通史編,  
美濃加茂市

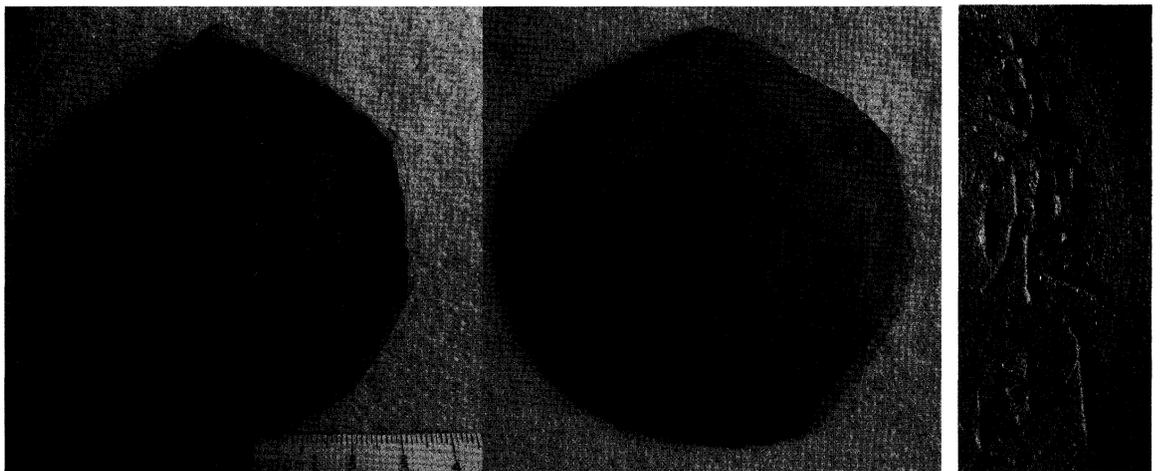
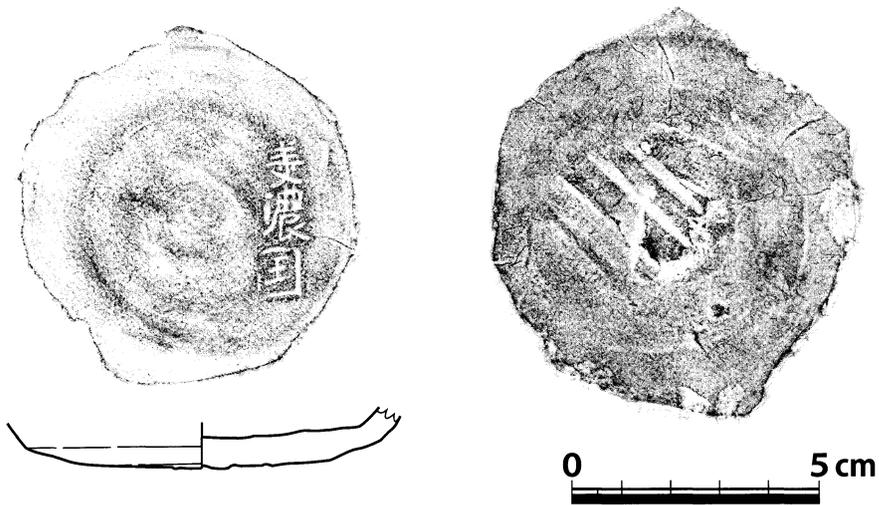


図2 「美濃国」刻印須恵器実測図・写真